厚生労働科学研究費補助金（地域医療基盤開発推進研究事業）
医療安全的観点からの、医師の働き方改革に対応するための医師の勤務時間帯間
引継ぎ体制の整備に資する研究

分担研究報告書
医療安全的観点からの、医師の働き方改革に対応するための
医師の勤務時間帯間引継ぎ体制の整備に資する研究

研究分担者　水野　篤　学校法人聖路加国際大学・聖路加国際病院
循環器内科・副医長

研究要旨
（背景・目的）2024 年からの医師の働き方改革により、夜間・休日の診療体制が交替制に移行し、医師間の引継ぎの重要性が増している。一方で、引継ぎは情報伝達エラーの温床ともなり得る。本研究では、循環器領域を中心に、医師の引継ぎに関する実態と課題を把握し、今後の医療安全体制整備に資する知見を得ることを目的とした。
（方法）日本心臓病学会正会員（医師）を対象に Web アンケート調査を実施し、5,093 名中 625 名（12.3%）から回答を得た。調査項目には勤務時間の変化、引継ぎの状況、情報共有の満足度、ICT ツールの使用状況などを含めた。研究は倫理審査の承認を得て実施された。
（結果）医師間の引継ぎは広く実施されていたが、約 20%が情報不足を経験していた。引継ぎの重要性については現場での認識に差があり、I-PASS などの標準化ツールの使用は限定的だった。
（考察・結論）引継ぎ体制は医療現場の工夫に依存しており、質のばらつきが存在する。今後は、標準化された引継ぎ手法や教育ツールの導入を通じて、情報共有の質と患者安全の向上を図る必要がある。

A．研究目的

2024 年より本格実施された医師の働き方改革により、時間外労働の制限が強化され、夜間・休日の診療体制は主治医の継続的対応から、交替勤務による医師間の引継ぎへと急速にシフトしている。この変化は、情報伝達エラーを引き起こしやすい患者安全上のリスクを内包しており、海外では引継ぎ教育プログラムの導入により有害事象が抑制された事例も報告されている。一方で、日本における医師の引継ぎ実態やその質についての包括的な調査は乏しい。
本研究は、特に 24 時間の対応が必要とされる循環器領域働き方改革後の医師の引継ぎの現状を明らかにし、医師間・他職種間における情報共有の課題を抽出することで、今後の医療安全体制の質的向上を検討することを目的とする。

B．研究方法

日本心臓病学会正会員（医師）を対象に、Web アンケート調査を実施した。調査期間は 2024 年 7 月 17 日から 8 月 5 日までで、対象は登録メールアドレスを有する 5,093 名のうち、回答数は 625 件（回答率 12.3%）であった。調査項目には、勤務時間の変化、引継ぎの実施状況、情報共有の満足度、ICT ツールの活用状況などを含めた。

また追加で 2025 年 3 月 3 日から 4 日まで アンケート調査会社による循環器病患者パネルによる引継ぎ調査を実施した。特に引継ぎに関しては医療者間の情報引継ぎ（医師が交代する、他院に紹介されるなど）に自ら参加するかどうかについて 4 段階（強くそう思う～全くそう思わない）にて評価を行った。

（倫理面への配慮）

調査は匿名で実施され、個人情報の特定が不可能な形式で回答を収集した。研究計画は聖路加国際病院の倫理審査を経て承認されており（整理番号 24-R061）、研究目的、方法、個人情報保護方針は調査冒頭で明示した上で、回答者の自由意思による同意を得た。

C．研究結果

医師間の引継ぎは多くの施設で日常的に実施されており、そのうち約 20%の医師が情報の不足を実感していた。一方で、引継ぎの重要度については他の課題と比べて優先順位が低いと感じている医師も多く、現場の認識には差が見られた。また、引継ぎ支援ツール（I-PASS 等）の使用は限定的であり、導入や定着には至っていないケースが大半であった。

また循環器病患者パネルからの結果では医療者間の情報引継ぎ（医師が交代する、他院に紹介されるなど）に自ら参加するという患者は 341(67.9%)であった。

D．考察

本調査により、働き方改革による医師の勤務時間短縮は一定の進捗を見せている一方で、引継ぎの体制整備は現場の工夫に依存していることが明らかとなった。医師間のみならず多職種との情報共有が求められる中で、標準化された引継ぎモデルや教育プログラムの導入が重要となる。特に、I-PASS などの既存の国際的ツールの導入可能性や、日本の医療現場に適応したカスタマイズの検討が今後の課題である。

また循環器病患者の引継ぎへの参加率は比較的高いと考えられたが、実際にどのような安全面での利点があったかなどについてさらなる検討が必要である。

E．結論

医師の働き方改革に伴い、勤務時間帯間の引継ぎは今後ますます重要性を増す。医療安全の観点からは、医師間および多職種間の引継ぎの質を高めるための体制整備と教育ツールの普及が不可欠である。本研究の知見は、質の高い医療提供の継続と、患者自身が参加する安全の確保に向けた政策提言の基礎資料となることが期待される。

F．研究発表

1. 論文発表

なし

2. 学会発表

水野篤　働き方改革後の医師の申し送りに関する実態調査 -日本心臓病学会会員を対象としたアンケート分析：医療安全と患者安全の視点から- 第 11 回日本医療安全学会学術総会

G． 知的財産権の出願・登録状況

（予定を含む。）

1. 特許取得

なし

2. 実用新案登録

なし

3. その他

なし